第２学年２組　国語科学習指導案

令和５年２月３日（金）
指導者　　原　　平

１　単元名　しを　楽しもう！～まど・みちお作「キリン」の詩の読み比べを通して～

２　単元の目標

（１）語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読することができる。

〔知識及び技能〕(1)ク

（２）場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えることができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕C(1)イ

（３）詩を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕C(1)カ

（４）これまでの学習を生かしながら，言葉のおもしろさを感じ，思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力，人間性等〕

３　単元で取り上げる言語活動

同じ題材の詩を比べて読み，内容や感想などを伝え合う活動。

（関連：〔思考力，判断力，表現力等〕C(2)イ）

４　授業構想と探究への手立て

本単元は，〔思考力・判断力・表現力等　C読むこと〕において，（１）カ「文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること」を重点指導事項とし，「同じ題材の詩を比べて読み，内容や感想などを伝え合う」という言語活動を設定した。

〇思考の必然性を実感することができる単元構成の工夫

詩は，一つの言葉や短い文によって驚きや悲しみ，感動を表現している。本単元では，まど・みちおの詩「キリンさん」「キリン（同名の詩２編）」の３編の詩を取り上げて学習を展開していく。同じ作者の同じ題材の詩だが，それぞれの詩によるキリンの描かれ方は大きく異なっている。３編の詩との出合いから，「またキリンだ！」という驚きや「同じキリンの詩なのに違っていておもしろい！」という発見，「他にもキリンの詩があるのだろうか？」「他の詩も読んでみたい！」という他の作品への興味・関心の広がりなどを生み出していきたい。

それぞれの詩には，くり返し・呼びかけ・比喩表現・構成・語り手（作者）の視線の変化など，詩を楽しむ要素がたくさん散りばめられている。それぞれの詩の面白さを感じることができる一つの手立てとして，「一行ずつ」「連ごとに」「全文まとめて」「空欄を設けて」等，教材の提示の仕方を工夫したい。詩の特徴や面白さを引き出し，児童が先を読み進めたいと思えるように，教材の提示の仕方を変え，より効果的な詩との出合いを模索したい。

〇学び合いの場における教師のはたらきかけの工夫

本時で取り扱う「キリン」は，対象（キリン）の特徴を作者自身の感覚でとらえた言葉がそのまま描き出されているところに面白さがある。そこで，本時では，児童が詩の出合いから感じた「面白い」「不思議」を基に，①詩の中での言葉の使い方　②語り手となる作者の視線の変化の２点に着目して読み進めていく。「足があるく」という言葉から，どのような様子を想像することができるのかを話し合ったり，作者が「どこから」「どのように」キリンを見ているのか，自分の読み取った詩の場面の様子を絵に表したりする学習活動を取り入れる。そこから，教材文の叙述へ立ち返り，言葉の感覚やリズムのおもしろさ・楽しさを味わうことができるようにしていきたい。

５　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読している。	①「読むこと」において，場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えている。 **②「読むこと」において，詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。**	①進んで，詩を読み比べ，これまでの学習を生かして，思いや考えを伝え合おうとしている。

６　単元全体の流れ（全３時間）

・まど・みちおの詩「キリンさん」「キリン」と出合い，二つの詩の違いを楽しみながら読む。（１）
・まど・みちおの詩「キリン」と出合い，楽しみながら読む。（２・本時）
・これまでに学習した詩と同じ題材の詩と出合い，一番工夫が面白いと感じるおすすめの詩を１編選び，考えを共有する。（３）

７　本時の学習（第２時／全３時間）

（１）ねらい

詩を読んで感じたことを基に，言葉に注目して読むことを通して，場面の様子や内容の大体を捉え，詩の面白さに気づくことができる。（思考力，判断力，表現力等）

（２）展開

主な学習場面と子どもの取組	目指す姿と取組を支える手立て
１．題名「キリン」と出合い，どんな詩かを考える。 ・三つもキリンの詩を書いているなんて驚いたな。 ・前の二つは雲が出てきたけど，今度は何か違うものが出てくるかもしれないな。	・はじめに題名だけを提示することで，前時に出合った詩との違いを考え，興味や問いをもって詩を読み進めることができるようにする。
しの　おもしろいところや　ふしぎなことを　見つけよう	
２.「キリン」を読み,「おもしろいな」「不思議だな」と感じたところを発表する。 ・「足があるくよ」って変な感じがするな。 ・「顔」だけが一行（一連）になっているよ。どうしてだろう。 ・「キリンをごらん」って誰かに話しかけているみたいだね。	・全文を連ごとに掲示することで，連構成や表現の工夫に注目して読むことができるようにする。
３．見つけた「面白い」「不思議」について話し合う。 （１）「足があるくよ」という言葉に注目して話し合う。 ・「足で」だとキリンが足を使って歩いているけど，「足が」は足そのものが歩いている感じがするよ。 ・ものすごい大きい足が歩いてるように見えたんじゃないかな。 （２）「キリンをごらん」ということばに注目し，作者がどこからキリンを見ているのかを絵で表す。 ・キリンのすぐそばに描いたよ。近くでキリンを見ていたから，キリンの足しか見えなかったんじゃないかな。 ・キリンを真下から見上げているんじゃないかな。前を向いたら足しか見えなかったけど，上を向いたら顔がどん！って出てきてびっくりしたんだと思うな。	・「足があるく」と「足であるく」の違いを問いかけることで，表現の面白さについて感じたり，作者が見ているものが何かを考えたりすることができるようにする。 ・キリンの体長が分かるものを提示することでキリンの大きさを想像することができるようにする。 ・「だれが」「どこから」「どの方向（何）を見て」「何を伝えようとしているのか」ということをはっきりさせながら読むことができるよう，作者がどこからキリンを見ているのか，絵で表して考える活動を取り入れる。 ・絵で表した人間の大きさや見ている場所などについて，問い返したり，掘り下げたりすることで，イメージを膨らませながら読んでいくことができるようにする。
４．本時の学習をふり返る。 ・キリンのことを「わぁ大きいなぁ」と思いながら見ていることが「足があるく」っていう言葉で分かったよ。 ・「キリンをごらん」って２回も話しかけているところが面白いと思ったよ。きっと，キリンのすごさを知ってほしかったんじゃないのかな。 ・他にもキリンの詩があるのかな。他のキリンの詩も読んでみたいな。	【評価の観点（思考・判断・表現）】 詩を読んで感じたことを基に，言葉に注目して読むことを通して，場面の様子や内容の大体を捉え，詩の面白さに気づいている。 （発言・ワークシート・音読の様子） ・作者が「キリン」を題材にした詩を全部で９編作成していることを伝え，次時の学習につなげる。